

まちの中心に集まろう!!

3C PROJECT

土井秀紀、高川孝行、寺西宣泰、室佳苗、武内紅仁恵、井藤貴志

富山市に賑わいをつくりたい!

どうしたら人々の「行きたい」「何かしたい」という思いを実現できるのか?

人と人とが繋がる、魅力あるまちをつくることができるのか?

「まちの中心に集まろう」3CProjectからの提案です。

1. はじめに

グループメンバーで中心市街地のイメージについて話していると、「昔と比べて人が少なくて寂しい」「あまり行かない」などの意見が出ました。

高校生対象に実施されたアンケート（「新総合計画策定にかかる高校生アンケート調査報告書」富山県）でも、定住したくない理由として4割以上の方が「魅力あるイベント、遊ぶ場が少ない」「街に活気が無い」などを挙げています。

また、実際に富山市の中心市街地の歩行者量を見ると、平成7年から平成21年にかけて約7割もの歩行者量が減少していることがわかります。

私達は、「まちが賑わっていない」というイメージは、「どこかに行きたい」「何かしたい」という意欲の低下につながっていると考えました。

2. 富山市の賑わい(現状)

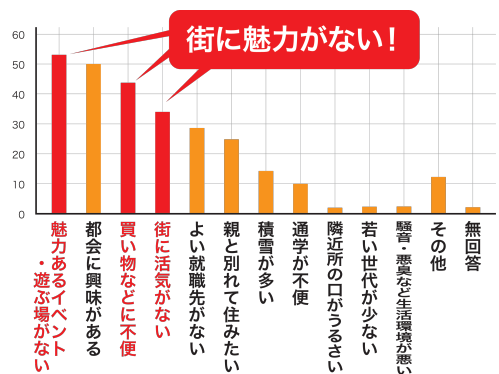
富山は賑わっていないというイメージがある一方で、中心地での山王祭やサッカーのパブリックビューイング開催時では非常に多くの人が集まっています。なぜでしょうか?

これらイベントは「賑わっている」と多くの方がイメージするため、「楽しそう」という漠然とした期待感が持て、その「ワクワク感・期待感」が人を惹きつけていると私たちは考えました。

しかし一方で、これらの賑わいは「一時的な賑わい」であるために、「普段のまちに対する期待感」へは繋がっていないとも考えました。

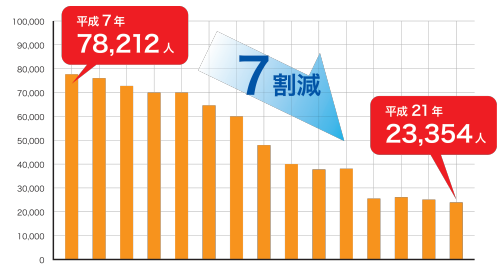
そのため、私達は、中心市街地に賑わいをつくる必要性を感じました。

■ 高校生アンケート調査報告書



※富山県総合計画資料「高校生アンケート」より

■ 中心市街地歩行者推移表



※富山県総合計画資料「富山市歩行者推移量」より

■ 山王祭・パブリックビューイングの様子



山王祭 パブリックビューイング

「一時的にはとても賑わっているが、
「普段のまちへの期待感」へ繋がっていない

「一時的な賑わい」から「継続的な賑わい」へ